

2022 年度外来表

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
A M						
スタッフ	岡田	石田	厚東	慶野	山田昌	井上
紹介初診	矢田、中島	水野、吉川	山田健 齋藤翔〈奇〉	長堀、富田	津田、山本雅〈奇〉 内田〈偶〉	高橋、内田
再診 / 専門外来	井上、北、廣田 片岡、高橋 眼窩 (今野・柳沼・ 齋藤恒・津田・ 山田健)	鈴木、中山、富田 津田、内田、 前田紗 高間〈偶月1〉	松東、吉野〈第2週〉 伊東〈偶〉、片岡 中山、久須見 高橋、吉川 佐野〈第1週〉	厚東、北 片岡、中山 水野、内田 矢田、中島	平形、松木、石田 渡辺敏〈偶〉 山田健、長堀〈奇〉 小児 (鈴木・濱・ 満川・富田)	廣田、齋藤翔 長堀〈偶〉 山本雅 前田菜〈奇〉 堀江〈第4,5週〉
P M						
専門外来	眼炎症 岡田・慶野・ 渡辺交・中山・ 肥留川・安藤・ 林・佐藤	角膜 山田昌・重安・ 藤井・久須見・ 安藤	緑内障 吉野〈第2週〉・北 齋藤恒・内田	眼炎症 慶野	糖尿病 勝田〈偶〉	
	網膜硝子体 井上・廣田	網膜硝子体 石田	黄斑 岡田・片岡・ 中山・野地 網膜硝子体 厚東	黄斑 岡田・山本・ 片岡・中山	神経眼科 氣賀沢〈偶〉・第2週 渡辺敏〈偶〉	
			水晶体 松木	角膜 山田昌	小児 鈴木・濱・満川・富田	
再診	北、片岡	鈴木、中山 富田、内田	高橋	北 鈴木〈第3週〉 水野、矢田	平形、松木、石田	

イベント情報

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、延期や中止などの変更が生じる可能性がありますので、ご参加の際は最新の情報をご確認いただきたく存じます。

<第12回東京多摩眼科連携セミナー>

2022年5月28日(土)14:30～17:00 場所：杏林大学大学院講堂(予定)

会費：1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

教育講演：「眼科医のための循環器疾患診断と治療」 副島 京子 先生(杏林大学医学部循環器内科学教室 教授)

<13th Eye Center Summit>

2022年6月4日(土)17:00～19:00 開催形式：Web

会費：1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

講演1「緑内障関連について(仮)」 谷戸 正樹 先生(島根大学医学部眼科学講座 教授)

講演2「加齢黄斑変性の病型・病態に基づく診療アップデート」柳 靖雄 先生

(横浜市立大学大学院医学研究科視覚再生外科学 客員教授)

編集部からのコメント

本年3月で平形明人教授が教室主任を退任され杏林大学医学部長になられました。皆様方のサポートもあり、私が4月から教室主任を引き継ぐこととなりました。アイセンターを離れて出張病院でも医局員の先生がそれぞれの個性を生かして働かれています。出張後はアイセンターに専門外来の一員として帰室されますので、さらにアイセンターを盛り上げて頂くのを期待します。(井上真)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 64
Spring
2022

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆ 佼成病院の紹介(伊藤 大) <1-2> ◆ 2022年度外来表 <4>
- ◆ 若葉眼科病院の紹介(黄 惺穎) <2> ◆ イベント情報 <4>
- ◆ NTT東日本関東病院の紹介(熊谷 真里子) <3> ◆ 編集部からのコメント <4>
- ◆ 小沢眼科内科病院の紹介(田中 禎規) <3>

<執筆者:括弧に明記 production:中山真紀子、津田麻祐子、仲野みずき>

佼成病院の紹介(伊藤 大)



伊藤 大(左)

2018年度に入局致しました、現在入局5年目の伊藤大と申します。趣味は仕事以外ではバスケットボール、ラップ、投資、などです。簡単な経歴ですが、元々は文系の大学に入学したのですが、途中で医師に憧れ予備校に入り直し、それこそ因数分解から教わりました。晴れて杏林大学医学部に入学、それから10年以上が経ちました。時間が過ぎるのは本当に早く感じており、それはその分日々充実しているのだと思っております。

杏林アイセンターに入局し2～3年の間は主に病棟医として働き、手術室では助手の機会に多く恵まれ、通常の白内障手術から難度の高い手術まで分野も問わずに間近でお手伝いさせて頂き、将来、実際に自分が執刀する際の糧となりました。この期間は眼科医としての土台形成期であったと考えます。

現在は佼成病院に出向させて頂いており、病棟医時代に培った知識や経験を生かし、主治医として働いております。佼成病院での仕事は、午前中は主に外来を担当し、月水木の午後は手術となります。外来は難しい疾患は大学ほど多くはありませんが、それでも受診患者数は多くなかなかお昼休憩する時間も無いまま午後の手術に臨むような状況です。手術は主に白内障手術が多く、木曜は硝子体手術が予定されることもあります。私自身、佼成に赴任し1年3ヶ月ほど経ちますが、執刀数は80件程で、ようやく顕微鏡下の手術操作に慣れてきたといったところでしょうか。また、上級医の先生のご指導のもと、症例毎のIOLの選び方や、手術前後のアセスメントの大切さも学ばせて頂いております。

また、イレギュラーな内容として、このコロナ禍ということもあり、佼成病院では眼科からもレジデントが発熱外来に派遣されてます。内科的な処方知識が要求されることもあり、なかなかスムーズに行かない場面もあります。

佼成病院では、白内障、眼炎症、角膜、斜視・弱視、網膜硝子体疾患、と幅広く経験することが可能で、研修の場としても有難い環境であります。引き続き精進致しますので、今後とも何卒宜しくお願い致します。

若葉眼科病院の紹介(黄 俐穎)

こんにちは。入局5年目の黄俐穎と申します。昨年4月より蒲田にある若葉眼科病院に出向しており、今回若葉眼科病院での生活について紹介させていただきます。

若葉眼科病院は常勤医の他に杏林からの外勤や非常勤の先生に来ていただき3~5診で外来診療をしています。

手術は休日と月曜を除き毎日行っており、白内障手術、緑内障手術、眼瞼手術が主に行われています。また、第2.4週水曜は廣田先生が硝子体手術を行っています。

1週間のうちのほとんどは外来診療をしておりますが、週1で研究日が設けられており、私の場合は火曜が研究日、木曜午前が手術と決まっていますので、それ以外は外来で診察、処置を行っています。

外来では多くの検査に対応しているため幅広い診療が可能であり、処置は硝子体注射、レーザー、霰粒腫切開等を行っています。やったことのある処置はさらに経験を積むことができますし、霰粒腫切開のような大学でなかなかみることが出来なかった処置はご指導いただきながらやらせていただく機会もあります。判断に悩む症例も相談しやすい環境でありとてもありがたいです。

手術は廣田先生の硝子体手術や白内障手術を指導して下さる吉野先生の様々な手術の助手に入り、自分の症例も毎週数例ではありますが執刀し技術の向上に励んでおります。研究日は大学で人間ドックの読影や専門外来の陪席をローテーションしており、大学ならではの症例や検査について学ぶようにしています。

当直は週に1回、入院患者の対応が主になります。また休診日の最終週の土曜と日祝は診察当番が割り当てられており、入院患者やあらかじめ休日に診察を予定している患者がいれば当番が朝に診察を行います。

食堂があり毎日昼食や当直日には夕食朝食を準備して下さるので、昼休みは食堂で昼食を取った後ひと時の休憩を挟み、午後の診療を行っています。

日々メリハリのある勤務ができていているように感じますし、これからも経験を増やしより成長できるよう精進いたします。



左より、吉野副院長、大岩先生、大平院長、黄

NTT 東日本関東病院の紹介(熊谷 真里子)

入局5年目の熊谷真里子と申します。昨年度よりNTT東日本関東病院にて勤務しています。当院では結膜炎や霰粒腫、ドライアイなどの比較的軽い病気から、緑内障や糖尿病網膜症、加齢黄斑変性など幅広い疾患に対し診療を行っています。手術治療もしており、年間約800件前後の手術を行っています。現在はコロナ禍のため普段よりも件数が少なくなっており、昨年手術件数は約700件でした。また、当院予防医学センターで行われている人間ドックでの眼底写真の読影も重要な業務の一つです。

私の場合、普段午前中は外来診療をし、午後は手術を行っています。当院に受診されるのは緑内障や白内障、ドライアイ、糖尿病網膜症の定期検査の方が大半で、大学病院のようなより大きな医療機関と比べcommon diseaseの方を診る機会が多くあります。同じ疾患であっても患者さんごとに主訴は違いますし、考え方や生活状況も違います。



左より、久保先生、小田部長、林先生、熊谷

それぞれの患者さんにとって何が一番良いのかを患者さんやその家族と話し合い、最適な治療法を探っていくことにとってもやりがいを感じています。

手術は白内障手術が主で、その他黄斑前膜、黄斑円孔の手術も行っています。私の場合多くて週3件の白内障手術をしています。上の先生方が常に助手としてサポートして下さるので安心して手術に臨むことができます。

当院には大学病院程の設備はありませんが、地域に根付きそれぞれの患者さんに寄り添ったより良い医療を提供できるよう、これからも精進していきたいと思っております。

小沢眼科内科病院の紹介(田中 禎規)

入局3年目の田中禎規と申します。現在私は茨城県水戸市にある小沢眼科内科病院にて研修を行っています。今回、簡単ではありますがこの場をお借りして当院での研修に関してご紹介させていただきます。

当院は、年間手術件数が白内障手術約6500件、硝子体手術約1300件、眼瞼手術約1000件など、非常に多くの症例数を誇る眼科病院です。各領域の専門医が勤務しており、県内外からの多くの患者様の診療にあたっています。また、糖尿病を専門とした内科医も常勤しており同疾患に対し、相互に連携しながら治療にあたる事が可能です。

後期研修医の受け入れは2020年から始まったばかりのため、私が第一期の後期研修医となりました。現在、後期研修医は私一人が在籍しており、医局の先生方全員からの指導をいただける環境にあり、非常に充実した研修を受けさせていただいています。

週5日勤務のうち手術日(半日は外来)を2日いただいています。白内障と硝子体手術の助手、そして眼瞼手術の助手につかせていただく日があり、2年目の現在は、白内障手術を週1件、眼瞼手術を月に1~2件ほど上級医の指導のもと執刀させていただいております。外来は半日で20件ほどの予約患者様を担当させていただき、それに加えて硝子体注射やレーザー、霰粒腫や翼状片などの小手術をおこなっています。症例は非常に多岐にわたり、白内障、緑内障、糖尿病網膜症に加え、サルコイドーシスや動脈炎性視神経症、緊張性瞳孔など希少な症例も経験させていただきました。治療に苦慮することもしばしばありますが、指導医の先生方に適宜指示を仰げる環境にあるため、安心して研修に臨んでいます。



医局集合写真

前列左より：川原先生、戸田先生、田中院長、小沢理事長、木原先生、吉田先生
後列左より：田中、小林先生、木住野先生、今井先生、石川先生、広江先生、安藤先生、水谷先生、松田先生

また学術面では、昨年10月に行われた臨床眼科学会で当院におけるiStent inject W®の短期成績に関して報告させていただく機会もいただきました。

残りの研修期間も5ヶ月ほどとなりましたが、これまで以上に成長できるよう精進したいと思っております。